優れた専門医を育成する
日本トップクラスの大学病院を目指して！

医師育成キャリア支援室　室長　濵田　久之

【一本の電話】

昨年の５月、一本の電話が文部科学省から前勤務地の長崎医療センターへかかってきました。今度、文部科学省が大学病院で新しいプロジェクトをやるので、その申請の審査官（ペーパーレフェリー）をやってくれということでした。もう大学を離れてずいぶんとなり、あまり縁のない私は、“大学のことはわかりません”と答えると‘大学の垢のついてない、わからない人を選んで審査官になってもらう’という返事でした。数週間後に集まったレフェリーは、なるほど、大学とは縁のない、ある意味、大学と対極の病院で医学教育をやっている現場の人たちばかりでした。

担当の方によると‘大学病院を専門教育病院として再生させ、若い人をどんどん集めたい’ということでした。さらに、“専門教育を誰が見てもわかるように透明性、計画性を高めるプロジェクトです”とのことでした。もちろん、専門教育はこれまで医局が担ってきたわけですから、それを他の部署でするとなると‘医局をなくすつもりですか？’という質問があちこちから湧いてきました。‘そういうことではなく、大学病院としては、専門教育プログラムを標準化し質を高める使命があります。どの地方の大学病院で高度医療研修をしても専門医になれるように大学間が連携して医師を育てる必要があります’と言われた記憶があります。

文部科学省の担当官が言われたプロジェクトは、私がカナダのトロント大学で勉強した医学教育に近いものだと感じました。カナダでは、専門医教育を担うのは専門職団体（日本の学会＋医師会のような機能を持つ）であり、養成プログラムは専門職団体が作り専門医の免許も専門職団体が発行します。大学は、そのプログラムに則りコースを設立し、人を育てます。また、州全体の教育病院の教育を統括します（人事制度は、北米ですので、各自の個人契約で流動する）。つまり、どこの病院でも専門教育は基本的に変わらず、透明性の高いものとなっています。

【お土産は鉛筆と・・】

しかしながら、これが、日本で通用するのか？と疑問に思いながら、文部科学省から長崎へ帰りました。会議に使われた鉛筆に＜文部省＞と書いてあったので、３本ほど許可をもらい娘のお土産にしました。‘これを使って受験すれば、絶対通るね’と妻は喜んでくれましたが、娘は‘別に～’の一言。数日後、大きな段ボール箱がお土産として省から届きました。30 弱の各大学の申請書（電話帳のように厚い！）が入っており、１か月ほどかけて眠い目をこすりながら読み、点数をつけました。しかし、これは、自分には関係のない遠い大学という国で起こっている珍事だと…、大変気楽なものでした……。

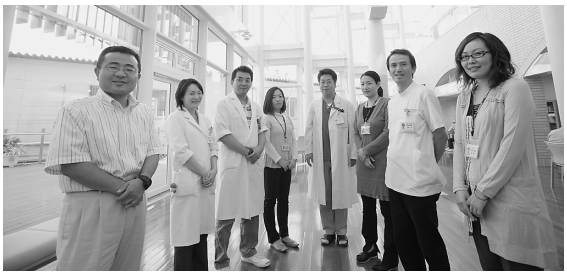
さて、それから数ヵ月後何かの縁で、私が、このプロジェクトに参加させていただくようになり、前述のように様々な困難は感じておりますが、頑張っていこうと思っております！
以下は、少し具体的に仕事の内容を書きましたので、ぜひご参照ください。

【医師育成キャリア支援室の組織とスタッフ】

日本トップクラスの専門教育を提供する大学病院を目指して、長崎大学医学部・歯学部附属病院（以下、長崎大学附属病院とする）に医師育成キャリア支援室が平成 20 年 10 月１日に開設されました。このプロジェクトは、文部科学省による平成 20 年度＜大学病院連携型高度医療人養成推進事業＞によるもので、全国で 17 大学が選ばれました。長崎大学は佐賀大学と連携し、専門医を育成するための５年間の事業を始めました。

組織としては、附属病院内の臨床教育・研修センター（平野明善先生、安武享先生）の中に位置します。スタッフは、私の他に副室長宮本

俊之（整形外科）、宮明寿光（消化器内科）、濵口大輔（産婦人科）、小畑陽子（腎臓内科）、平尾加奈子、村山優貴、峯智美（事務員３名）と佐賀大学に医師１名、事務員１名が配属されました。



【本事業の背景】

ご存じのように、平成 16 年に新しい臨床研修制度が始まり初期研修は義務化されました。様々な問題を引き起こした制度ですが、そのひとつの問題に初期研修後の専門教育制度がやや不透明で脆弱であることが全国的に指摘されていました。初期研修を終えた研修医が大学へ入局するわけでもなく、渡り鳥のように点々と病院を移っている医師も多くなったようです。また、大学の入局制度が旧態依然としているところもあるため若い医師が敬遠して大学を避けるようになったとも言われております。

前述しましたが、私の理解によりますと、文部科学省は＜高度専門教育を誰もがわかるようなシステムとして（可視化、透明化）、質の高いプログラムを提供するために、大学間が弱点を補完しあって専門医を育てよう。そして、地域で働く専門医を増やそう＞という意図のようです。

【学部教育→研修医教育→専門教育の一貫性をめざす】

医師育成キャリア支援室は、後期研修医（卒後３年目から専門医をとるまで）のために働く初めての部署です。長崎大学には、学生のために先端医育支援センター、初期研修医のために臨床教育･研修センターが設置されています。今後は３つの部署が連携して卒前から卒後、そして専門教育までを医学部と大学病院が連携して責任を持って行っていきます。

【目玉の事業：御子弟が医師として長崎で楽しく働けるように！】

医師育成キャリア支援室は、専門医を養成するプログラムに関する仕事が主ですが、医師不足の昨今、実質上の目的は‘長崎県、長崎大学に若い医師をたくさん呼び込む’ことです。

ぜひ、御子弟様を長崎大学病院に呼び戻してください！今、長崎大学に入局すると医局だけでなくキャリア支援室の様々なサポートが付いてきます。

① 若い医師に学会認定の専門医資格をできるだけ早く、確実に修得していただくために、専門医修得に必要な教育的、経済的なサポートをします。
② 長崎県内外で初期研修を終えた医師が、長崎県内で後期研修（入局し、専門医資格をとるまで）にスムーズに入れるようにサポートします。
③ 新しい分野（児童精神領域、国際感染症領域）の教育プログラムを作成します。
④ シミュレーション室を開設し、難しい手技をシミュレーターで訓練して実地に臨む体制をつくります。
⑤ 佐賀大、久留米大、九州大学、神戸大学、日本医科大学、富山大学、琉球大学などと連携を結び、長崎県外での研修も可能となります。

【県外の医学部卒業生へアプローチする】

現在、長崎大学の入局者数は、10 年前の３分の１程度に激変しております。様々な原因がありますが、その大きな原因として、県内の高校を卒業して県外の医学部へいった人の、Ｕターン者数が少なくなったことが挙げられます。長崎県自体に魅力がなくなってきたのかもしれませんが、長崎大学附属病院も努力をしなければなりません。現在、長崎県の教育委員会と高校にご協力をいただき、医学部へ進学した生徒の保護者様へご協力をお願いする手紙を送付しております。また、同窓生の皆様へも手紙を送付し、ご協力を求めております。何卒よろしくお願い致します。

【日本最西端から日本一の大学病院を目指して！】

西洋医学発祥の地：長崎大学が中心となり、医局の壁、病院の壁を越えて、長崎県全体の専門教育システムをまとめあげ、質の高い教育を行うことが、次の 150 年の始まりと思っております。研修医や後期研修医など若い医師が下働きだけで疲弊している現状やイメージを打破して、目の輝いた希望を持った若い医師が働いている長崎大学附属病院を目指して頑張ります！